萩・明倫学舎（めいりんがくしゃ）がオープン

世界遺産・山口ＤＣ・瑞風

萩

山口県萩市は、2015年NHK大河ドラマ「花燃ゆ」放送や世界遺産登録にあわせて実施し成功した取り組みを発展させ、2018年明治維新150年に向けて、さまざまな事業を展開する。いよいよ3月4日には、旧明倫小学校校舎を改修整備した萩の観光起点「萩・明倫学舎」がオープンする。美しく蘇った明倫小学校校舎は萩の新しいランドマークだ。また「トワイライトエクスプレス 瑞風」の立ち寄り観光地として、注目も集めている。

萩・明倫学舎

全国屈指の規模を誇った萩藩校明倫館。藩校跡に建つ日本最大の木造校舎が萩の新たな観光起点になる。今回オープンするのは、本館と2号館。

本館は1935年（昭和10年）建築で、国登録有形文化財。萩まちじゅう博物館観光インフォメーションセンター、萩藩校明倫館展示室、多目的復元教室、明倫小学校展示室、ジオパークビジターセンター、天井裏見学室、復元校長室、復元教室、飲食スペースと萩の土産販売スペースが入る。

萩まちじゅう博物館観光インフォメーションセンターは、萩の歴史・文化・自然などへの興味を喚起する、観光の起点。市内観光に出発するための様々な情報が入手できる。また、萩・明倫学舎館内の案内も行う。

食材の宝庫である萩。飲食スペースでは、日本海で獲れる新鮮な萩のブランド魚を中心に萩ならではの旬の味覚を味わえる。土産販売スペースでは萩焼や夏みかんのお菓子などの萩の土産が揃う。

2号館も1935年（昭和10年）建築。萩の5資産を含む世界遺産「明治日本の産業革命遺産」を紹介する「世界遺産ビジターセンター」と幕末の歴史をひもとく貴重な寄贈資料を紹介する「幕末ミュージアム」がオープンする。

世界遺産ビジターセンター

世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の中でも、日本近代化の原点といわれる萩の5資産の位置付けや、吉田松陰がわが国の工学教育に果たした役割などを映像やパネル、アニメーションなどを使って分かりやすく楽しく紹介する。NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の松下村塾のセットも引き続き展示される。

幕末ミュージアム

萩藩が深く関わった幕末の動乱の軌跡を大砲や鉄砲など実物資料（器物）を用いて紹介。さらに医学、科学（機巧）などの分野別に、在来技術から近代技術への発展の歩みについても詳しく紹介。展示資料は近年萩市に寄贈された小川忠文氏の収集資料で全国屈指のもの。

萩・明倫学舎の開館時間は、午前9時～午後5時（飲食スペースは午前11時～午後9時まで）。観覧料は本館無料。2号館は大人300円、高校生200円、小中学生100円（団体2割引）。

駐車場は普通車約180台（1日310円）、大型バス10台（1日1030円）。

旧萩藩校明倫館有備館

萩藩校明倫館は享保4年（1719年）に5代藩主吉元が毛利家家臣の子弟教育のため堀内に開校した。それから約130年後、嘉永2年（1849年）に現在地（江向）に拡大移転した。約5万㎡もの敷地内に学舎や武芸修練場、練兵場などがあり、吉田松陰や楫取素彦も教鞭をふるった。創設から慶応3年（1867年）廃館に至るまで約150年の長期にわたって藩校として教育が行われた。

国指定史跡の旧萩藩校明倫館有備館は一般公開している。有備館は、剣術場と槍術場があり、萩（長州）藩士だけでなく他藩の志士も試合を行った。坂本龍馬も実際に試合を行ったといわれている現存する貴重な建物となっている。

改修が進む萩・明倫学舎

有備館

萩の明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業

世界遺産登録で受け入れ強化

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄、造船、石炭産業などの重工業が西洋の技術を取り入れて極めて短期間のうちに日本が「ものづくり大国」となる基礎をつくった歴史を物語る世界遺産。山口県・萩や九州など8県11市に立地する23の構成資産からなるシリアルノミネーションで、萩エリアには、産業技術導入の最初期の遺産群として5つの構成資産がある。シリアルノミネーションとは、広い範囲に分散する複数の資産を同じ歴史文化群のまとまりとして関連づけ、数珠つなぎにすることにより、全体で顕著な普遍的価値を有するものとして推薦することという意味。萩市内には、萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、萩城下町、大板山たたら製鉄遺跡、松下村塾の5資産がある。同世界遺産の中で、山口県内は、萩市のみで、最も古い産業革命遺産と関連地域となる。とくに松下村塾は、従来から萩観光の中心となっているが「花燃ゆ」の舞台、世界文化遺産への登録など観光客が増加している。スマートフォンで動画やガイドが楽しめる整備もされた。

萩城下町（萩市大字堀内1など）

萩城下町は、幕末に産業化に取り組み、産業文化を形成していった当時の地域社会の姿をよく表している。城跡（萩城の跡）、旧上級武家地、旧町人地の3つの区域によって構成されている。萩博物館も世界遺産エリアに含まれる。萩城跡指月公園では、往時の萩城天守閣の様子をVR（仮想現実）技術を使いCGで再現。専用タブレット端末で見学できる。

松下村塾（萩市椿東1537松陰神社敷地内）

萩（長州）藩の兵学者吉田松陰が主宰した私塾。松陰は身分や階級にとらわれず門下生として受け入れ、わずか1年余りの間ではあったが、久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文らが学んだ。松陰は海防の観点から工学教育の重要性をいち早く提唱し、自力で産業近代化の実現を図ろうと説いた。その教えを受け継いだ伊藤博文ら塾生の多くが、後の日本の近代化・産業化の過程で重要な役割を担った。

萩反射炉（萩市椿東4897－7）

西洋式の鉄製大砲鋳造を目指した萩（長州）藩が、1856年に建設した高さ約10・5mの反射炉の遺跡。近年、試作された反射炉であったとの研究結果が発表されている。遊歩道が整備され、観光ボランティアガイドも常駐。さらにJR西日本の運行開始する「トワイライトエクスプレス瑞風」が萩反射炉付近を走ることから、車窓から見学しやすいように整備が行われ、広場から萩反射炉と萩のまちなみ、海が見えるようになった。

恵美須ヶ鼻造船所跡（萩市椿東5159－14）

萩（長州）藩が西洋式帆船を建造するために設けた造船所で、国内で最初期の洋式造船所のひとつ。2隻の西洋式帆船（1856年に丙辰丸、1860年に庚申丸）を建造。VR（仮想現実）技術の導入で、西洋式帆船のCGが専用タブレット端末上で再現され、往時の様子を見学できる。

大板山たたら製鉄遺跡（萩市大字紫福257－5（山地番））

日本の伝統的な製鉄方法であるたたら製鉄の遺跡。第3回目の操業期と恵美須ヶ鼻造船所で丙辰丸が建造された時期が重なっており、造船所での船釘・碇などの製作に、このたたらで生産した原料鉄が利用された。現地には、絵図を用いた往時のたたら製鉄の様子が動画で紹介されている。

専用タブレット端末で紹介動画が楽しめる。

（萩城下町）菊屋横町

恵美須ヶ鼻造船所跡

造船所の場所は、小畑浦の恵美須ヶ鼻にしましょう。

VRと動画

萩反射炉

はぎ御膳・はぎ弁当

「花燃ゆ」放送時に、販売スタートした「ふみ御膳」「ふみ弁当」がリニューアル。

萩の風土に育まれた新鮮な食材を季節の移ろいとともに、地元の料理人が各々の感性で愛する萩を料理で表現。「直前料理」「おざなりにしない」「鮮度のある仕事」を徹底し萩だからこそできる「一つ先の新しい料理」を追求した。

「はぎ御膳」は、2400円または3500円。「はぎ弁当」は1500円。はぎ弁当は店内で食事や仕出しに対応する店舗もある。

はぎ御膳・はぎ弁当の条件

一、各店舗がはぎ御膳・はぎ弁当の中で、萩らしさを表現する料理を提供。一、桐箱・弁当箱の、マス内にこだわらず枠中におさめる。一、萩だからこその季節感などを説明できる食材を使用。一、お客様へのおもてなしとしてお品書きを用意。

はぎ御膳

「スーパーはぎ号」が継続運行

2次交通対策として、大河ドラマの放送を機に運行を開始した「スーパーはぎ号」は好評につき継続運行。新山口駅と萩観光の要所である「萩・明倫センター」を結ぶ。車体には萩の世界遺産がラッピングされている。

「スーパーはぎ号」は、自動車専用道路を利用し、ノンストップで運行することから、所要時間が片道約60分と既存の分短縮。1日4往復、運賃は3月31日までは特別料金で、おとな1550円、こども780円。4月以降の料金は検討中。

スーパーはぎ号

体の芯から癒される萩温泉郷

2004年に掘削された「はぎ温泉」により、萩は「温泉郷」となった。8つの泉質があり、露天風呂付客室に代表される高級タイプの施設から、気軽に日帰り入浴を楽しめる施設もある。

萩温泉郷

松陰神社名誉宮司による松陰講話

山口DC限定企画。松陰神社本社で御由緒や参拝の方法などの説明を受けた後、代表者が玉串を奉奠する正式の参拝を行う。

参拝後は、藩から自宅謹慎を命じられた松陰が過ごしていた吉田松陰幽囚ノ旧宅を見学。

普段は上がることのできない松下村塾に上がり、上田名誉宮司の特別講話を聴くことができる。今年は山口DCで設定。2016年のプレキャン時は料金が1千円。定員は40人（最少催行人員10人）。7日前までの主な旅行会社での予約で行われた。

松下村塾

萩焼のはじまり

茶陶（茶の湯で使うための陶器）として有名な萩焼は、江戸時代に毛利氏の御用窯として発展した陶器で、歴史は今から400年以上前の1592年の豊臣秀吉の朝鮮出兵に遡る。

萩焼の作風は土の風合いを生かした素朴な作風のものが多く、絵付けなどの装飾はほとんど行われない。登り窯の中で、高温の炎が生み出す「窯変（ようへん）」の魅力や、使いこまれるうちに、侘びた味を醸してゆく「七化け」の面白さなど。古くから茶人に珍重されてきた萩焼はやわらかで素朴な風合いがあり、同時に気品と風格も漂う。

萩の散策途中にぶらりと訪れるギャラリーでは、萩焼の深い味わいを実際に見て、触れて。土のぬくもりを、じっくりと感じるのがおすすめ。

萩焼の伝統と技を体で感じることができる「陶芸体験」を行っている施設もあり、絵付け、手びねり、ろくろなどが体験できる。

萩焼店

TWILIGHT EXPRESS 瑞風

「山陰コース（下り） ～文豪と維新の歴史をたどる旅～」で6月17日運行開始

ラッピングが施された「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」

「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」は6月17日の大阪駅・京都駅発、下関駅着「山陰コース（下り） ～文豪と維新の歴史をたどる旅～」の1泊2日（片道）が初運行となる。

運行開始後は、下関駅は、全5コースの内、1泊2日の4コースで出発駅または到着駅となる。萩へは「山陰コース（下り） ～文豪と維新の歴史をたどる旅～」で2日目の立ち寄り観光を実施する。

JR西日本は、「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」の乗車駅（JR京都駅、JR大阪駅、JR下関駅）に、運行開始に合わせて、車両インテリアを監修している浦一也氏のデザインによるラウンジやモニュメントを設置する。

下関駅では、瑞風の車両を早期に入線させ、出発まで車内で寛げるようにするが、ホーム上においても出発までの時間を楽しめるようモニュメントやベンチなどを新設する。車内はチェックイン、荷物の預かり、ドリンク、スイーツの提供などを行う。

立ち寄り観光

TWILIGHT EXPRESS 瑞風の旅では、1日1回、沿線の途中駅に立ち寄り、沿線の歴史、文化や美しい景色を観光する。この立ち寄り観光では、国内外で評価される観光地に加え、知る人ぞ知る日本の原風景を探訪し、非公開箇所の見学や隠れた名品の鑑賞等の特別な体験を提供する。

萩市内の立ち寄り観光は、世界遺産の松下村塾、萩焼の窯元を訪ねる。東萩駅で下車し、専用バスで移動。松下村塾で名誉宮司による幕末秘話の特別講話を聞き、萩焼名窯元「不走庵 三輪窯」を訪問する。

最寄り駅の東萩駅では①外観、コンコースの美装化、装飾。萩城下町の風景を想起させる「格子」や「なまこ壁」の装飾を施した外観へと改装。②専用出入り口の設置。

萩での立ち寄り観光を終えた後は、国の登録有形文化財であり、JR西日本の登録鉄道文化財にも指定された駅舎をもつ「萩駅」より乗車する。「鉄道の父」と呼ばれる井上勝ゆかりの地である萩市で、大正14年の開業当時の姿を復元、保存する駅舎をもつ「萩駅」の風情を楽しめる。

やまぐちデスティネーションキャンペーンにあわせて山陰本線（山口県）に新たな観光列車を導入

JR西日本では9月から12月に開催する「幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン」（山口DC）に向けて山口県をはじめとして県内各地域と連携し魅力ある観光素材や二次アクセスの整備、おもてなしの準備などを進めている。山口DCを契機として国内有数の海の眺望を誇り、県内の主要観光地を結ぶ山陰本線に新たな観光列車を導入し地域の人との連携を通じて沿線の魅力のPR、地域活性化に一層取り組む。

導入時期は17年夏ごろ（予定）。運行区間は山陰本線（下関エリア～長門エリア～萩エリア）。使用車両はキハ47系気動車2両編成（現在山陰本線を運行する観光列車「みすゞ潮彩」を改造することで新たな観光列車を導入する、これに伴い「みすゞ潮彩」は運行を終了する）。本州最西端の響灘や日本海の絶景をゆっくり楽しめる座席、沿線の美味、美酒など山口の魅力を堪能できるサービスやおもてなしを提供する。

レトロな雰囲気を残す萩駅

下関駅のイメージ

問い合わせ先
公益社団法人萩市観光協会 山口県萩市椿3537−3 TEL：0838-25-1750
【ぶらり萩あるき】 http://www.hagishi.com/
萩市商工観光部観光課 山口県萩市江向510番地 TEL：0838-25-3139

TWILIGHT EXPRESS 瑞風 スペシャルサイト
http://twilightexpress-mizukaze.jp/